

令和2年度第1回渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 会議録

1 日時

令和2年6月17日（金） 書面開催

2 出席者

渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 構成員

3 議事

1 渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会要綱の変更について

- ・渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会要綱の一部改正（案）について、全会一致で承認された。

2 野生イノシシの捕獲状況等について

- ・幼獣の比率の高さが明確化できたことは、一つの成果と考えられる。引き続き「成獣の捕獲」の重要性に関する啓発が肝要である。なお、幼獣の捕獲も一定レベル以上に達していれば、以降の成獣個体数に影響する可能性があるため、成獣/幼獣の情報収集をお願いしたい。
- ・繁殖に関与する2歳以上イノシシの捕獲割合を評価する必要がある。
- ・はこわなによる捕獲は、イノシシのライフサイクルに応じた戦略が望ましい。（授乳期は群れごと捕獲/離乳後は容易に捕獲できる個体から捕獲）

3 渥美半島における生息状況調査について

意見なし

4 2020年度の捕獲目標と取組について

- ・指定管理鳥獣捕獲等事業の導入について、これまでの有害捕獲従事者との役割分担の明確化が必要である。分業については、昨年第4回協議会の資料を再度参考として挙げる。（添付1）
- ・「根絶状態」以降もモニタリングは必要であり、モニタリング計画の共有が望ましい。
- ・分断柵による部分的な根絶は、わな猟と猟犬による捕獲を計画的に繰り返してはどうか。
- ・新規のわな設置は、猟友会と地域との十分な話し合いを通して安全で効果的な取組を作り上げていくことが必要と思われる。
- ・捕獲補助者は、地域の既存団体に声掛けし、活動の一環としてスタートするのはどうか。
- ・JAとの連携も一案である。長期的な捕獲者増の手段として、果樹対策を主とす

るハクビシン等の中型獣捕獲から始め、狩猟免許取得と捕獲の実践を促し地域の獣害対策の担い手育成につなげたい。

・昨年の生息調査により、イノシシの生息域が当初の想定よりも広範囲であったことを考慮し、「実現可能性」の検討も必要かもしれない。参考に、その論文を共有したい。(添付2)

以上